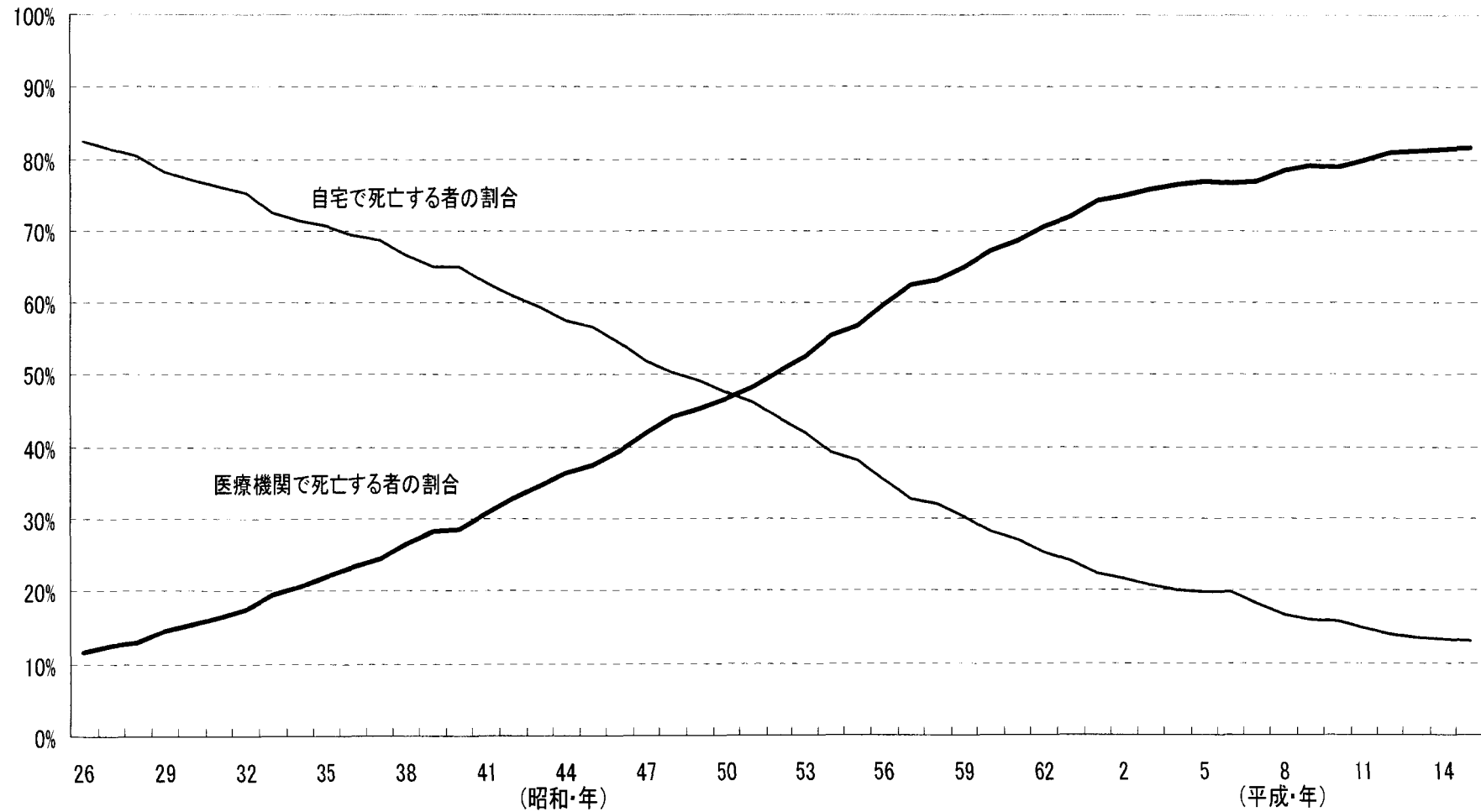


終末期の医療費・制度別実効給付率について

医療機関における死亡割合の年次推移

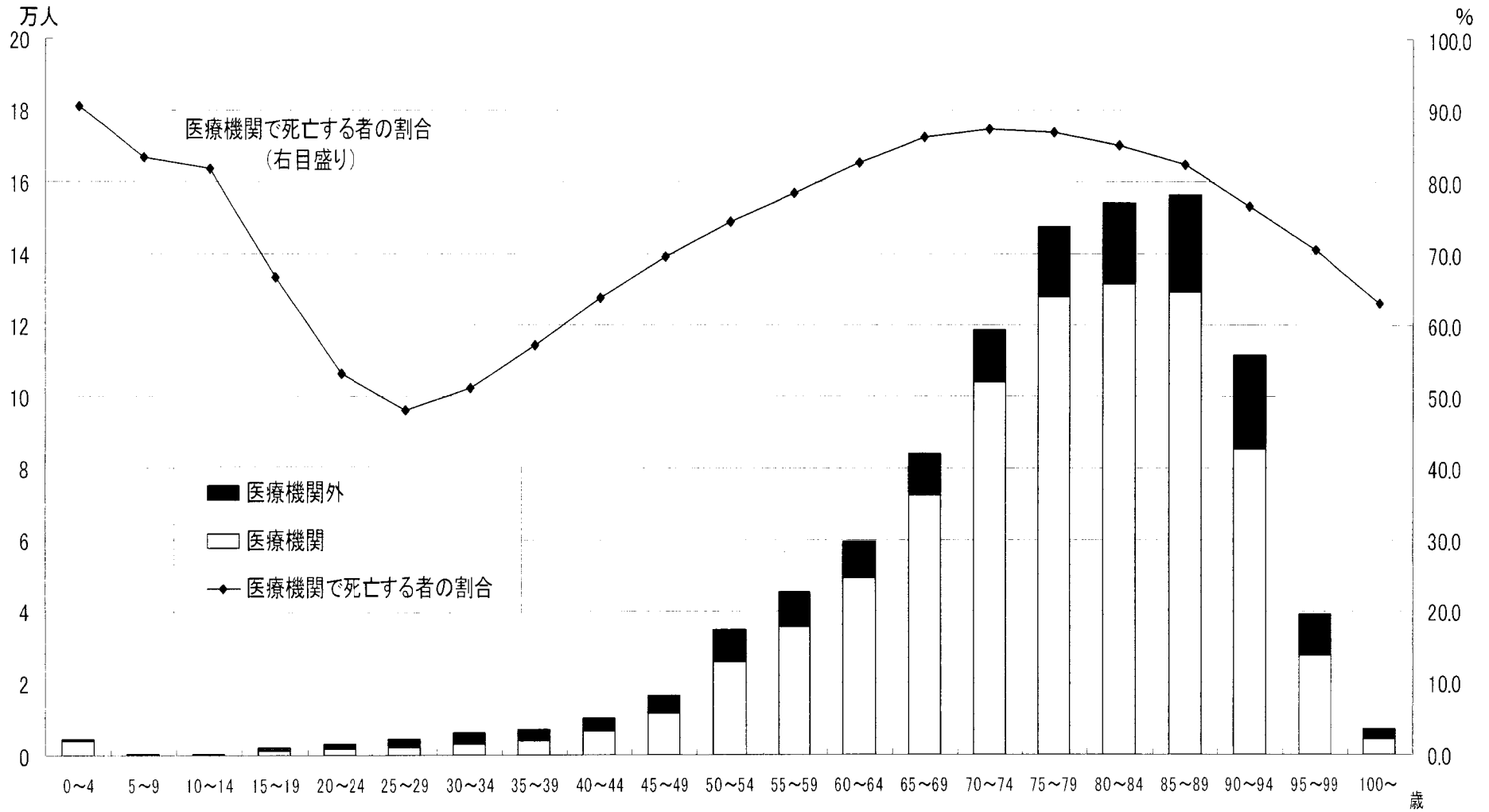
- 医療機関において死亡する者の割合は年々増加しており、昭和51年に自宅で死亡する者の割合を上回り、更に近年では8割を超える水準となっている。



資料:「人口動態統計」(厚生労働省大臣官房統計情報部)

年齢階級別医療機関での死亡者数(平成15年)

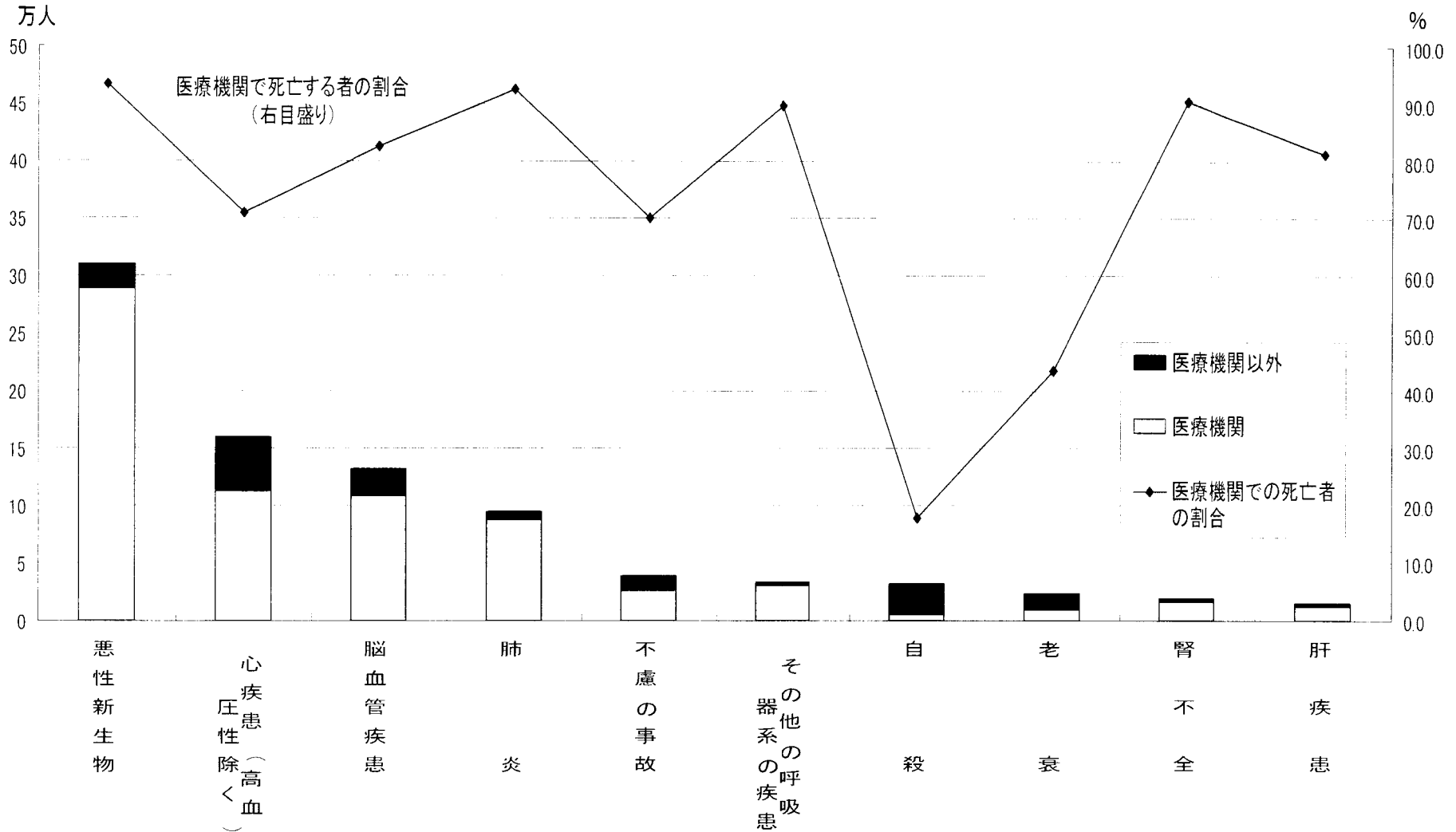
○ 死亡者数は、70歳台後半～80歳台で多く、全年齢を平均すると約8割が医療機関で死亡している。



資料出所:厚生労働省統計情報部「人口動態調査」

死因別医療機関での死亡者数(平成15年)

○ 死因別に死亡者数をみると自殺、老衰を除いて、8割前後が医療機関で死亡している。



資料出所:厚生労働省統計情報部「人口動態調査」

終末期の患者の入院治療費の例(粗い推計)

食道がん術後、自宅にて療養中、癌性疼痛、癌性発熱等の症状悪化により入院。

入院後30日で死亡。(主な治療: 中心静脈点滴、麻薬、鎮静剤等の投薬、人工呼吸、血液検査 等)

項目	点数	内訳
入院基本料	63,000	入院基本料及び入院基本料等加算×30日
投薬・注射	14,000	抗がん剤、麻薬、鎮静剤、解熱剤、抗生物質 等
処置・検査 等	38,000	人工呼吸、酸素吸入、心拍モニター 等

30日間の合計 115,000 点

1日当たり 3,833 点

(1点は10円)

終末期の患者の在宅治療費の例(粗い推計)

食道がん術後、自宅にて療養中、30日で死亡。訪問診療の他、不穏状態等により往診 も併用。

項目	点数	内訳
基本診療料	1,700	再診料、休日加算等
在宅医療	56,000	在宅末期医療総合診療料、往診料 等

※在宅末期医療総合診療料には、訪問診療料、薬剤料等が含まれている。

30日間の合計 57,700 点

1日当たり 1,923 点

(1点は10円)

制度別実効給付率(平成15年度速報値)

(単位: %)

政管一般				組合健保				市町村国保			老人 保健
被保険者 (70歳未満)	被扶養者 (70歳未満)	70歳以上 加入者	計	被保険者 (70歳未満)	被扶養者 (70歳未満)	70歳以上 加入者	計	70歳未満 加入者	70歳以上 加入者	計	
74.0	75.1	89.3	75.0	75.9	75.9	90.0	76.4	78.6	90.3	79.1	91.2

(注)

1. 実効給付率は、高額療養費等の給付費を加味した実質的な給付率である。
2. 上記の給付率のうち年齢別に表章しているものについては、世帯合算高額療養費を考慮していない。
3. 市町村国保の給付率は、退職被保険者等を除く数値である。
4. 組合健保の給付には、一部負担還元金、家族療養付加金、訪問看護療養付加金、家族訪問看護療養付加金を含む。